かたいもんそ

第59号

発行所　株式会社 文化社
本社　鹿児島市新栄町22-26
TEL　099-256-0075
支店　日置市伊集院町郡1264-3
TEL　099-273-2588

平成15年5月創刊　「かたいもんそ」は、 http://bunka－inc. Jp にてご覧いただけます。 59号は令和2年10月1日より配布開始しています。

社長：土屋妥九

先の豪雨、台風により被害に遭われた方々、また、ご関係者・ご家族の皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧と再建を心よりお祈り申し上げます。

今年もすさまじい暑さの夏でした。お客さまからたくさんの御心配りやお言葉配りをいただきその都度復活して英気を養う日々だったようです。誠にありがとうございます。

「受けた仇は水に流せ、受けた恩は心に刻め」と言われるように、自分が優位な立場にある時こそ、受けた善意を目の前の人にお返しする「善の循環」ということを伝えています。また、嫌なことを言われたりされたりしたときは、悪行･不幸は自分が最後になるように人には話さず、他人には同じような目に合わせない「不幸を断ち切る」ことも思っています。

仏教の教えに「六波羅蜜」という教えがあります。その一番目に「布施」があり、人に施す、人のために行うことを教えています。有形無形がありますが、人のためを思って行動することが、より大切になっていくだろうという気がします。

異常気象が続くこの頃ですが、何の対策もなされないこれまで通りの生産･経済活動を続けると熱波や海水温上昇による天災が続くと断言されています。弊社でも社員に空調服を用意しましたが、この程度では済まなくなります。将来の子供や地球のことを思う実践行動がますます必要になることを強く感じます。

併せて、コロナへの日常的な防衛も同時進行となりますが、皆さんと共にで乗り越えるしかありません。

～ コンパクト型浄化槽の清掃に関する講習会 ～

７月１７日、鹿児島市近郊の業者が集まり、「コンパクト型浄化槽維持管理研修会」が行われました。

コロナ禍の中での開催となり、検温や消毒お願いなどの手伝いなどをしながらの参加となりました。

各社人数も半分程度に減らし、ソ―シャルディスタンスを保ちマスク着用での研修会で、例年とは違う研修会となりました。

２、３年おきに各メーカーから新型浄化槽が発売されていますが、コンパクト浄化槽は少しの状況変化で水質が変化し、知識がないと維持管理するのが難しく、お客様に安定した業務をお届けすることができなくなります。

適正な状態を維持するように継続して勉強しています。

～ 浄化槽清掃研修発表会 ～

７月２８日、先ごろ行われた「浄化槽清掃研修会」に参加された同業者の方の、発表会及び意見交換会がありました。

近年の浄化槽は小型化されている為、１年間の汚泥を溜めることが難しくなってきており、メーカーごとにポイントを押さえながら、清掃をする必要があります。使用状況にもよりますが、十分な清掃を怠ると、貯留機能が低下することにより、水質悪化、汚泥流出や閉塞、臭気発生など不具合を生じてしまいます。

また、意見交換会では、各社で経験されたトラブル事例などが出され、様々な対処方法を学び、お互いのレベルアップを図りました。このような研修会に積極的に参加し、全担当が適正な業務ができるよう努力して参ります。

～ 酸欠･硫化水素危険作業特別教育研修会 ～

８月３日、「酸欠・硫化水素危険作業特別教育研修会」(酸欠等特別教育)が行われました。

酸欠等特別教育とは、事故を防ぎ安全・衛生的に作業を行うための知識を身につける講習です。

労働安全衛生法では、該当する危険作業に関わる業務に就く労働者は、特別教育を修了している義務があると定められており、弊社業務の中に、浄化槽や下水管内に潜行する危険な作業があることから全社員受講します。

～ 自主現場勉強会 ～

８月12日、清掃業務に従事する社員で自主勉強会を開催しました。昭和初期の浄化槽で「腐敗型」と言われる型式。

最近ではだいぶ少なくなっている型式で、見たことがない若手社員もいる為、先輩社員が先生となり構造から清掃の仕方まで学びあい共有しました。

誰が伺っても同じ品質作業ができるようにとの考る、社員による自発的な勉強会です。

浚渫工事

弊社では、普段からお世話になっている浄化槽の維持管理業務とは別に、下水道管の更正業務や皆様方のお宅の前にある、側溝の浚渫業務といった様々な仕事もしており、今回はこの「浚渫業務」をご紹介します。※「浚渫」・・・「しゅんせつ」と読みます。

浚渫工事とは・・・ダム・港湾・河川・側溝などの底部に溜まった汚泥や砂利・小石等を浚（さら）って土砂などを取り去る土木工事のことをいいます。

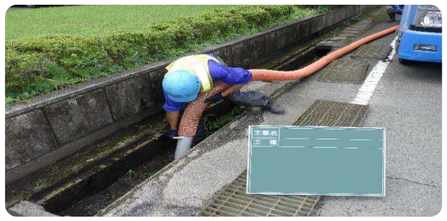
鹿児島市では特に桜島の火山灰などが側溝に堆積することにより、水の流れを妨げ、最終的には閉塞し溢れ出るなどの弊害が出てきます。また、水が滞留することにより、臭気や害虫の発生など衛生的にも問題が発生しています。

皆様方が普段使用されている浄化槽の放流先はこの側溝に流れており、（一部の浄化槽は、用水路や河川の直接放流しています。）近年のゲリラ豪雨の際には、「トイレの流れが悪い」・「排水管からボコボコと音がする」などのご連絡をいただきます。堆積物などが側溝内を狭くし、大雨の流量も多いことから側溝の流れが悪くなり、浄化槽へ逆流するなどしてこのような現象が発生します。

側溝内部:写真の通り、側溝の約３分の1が土砂や桜島の降灰で埋まっている状態です。定期的に除去しなければ、やがて管内の閉塞が起こり、大雨時には溢れ出ることになります。また、浄化槽の放流管はこの側溝に繋がっている為、管内が閉塞し満水になると、浄化槽の汚水が行き場を失い異音や流れが悪くなり最悪の場合、屋内に逆流する恐れもあります。

高圧洗浄機：クマの手（笑）のように見えるのが高圧洗浄機の先端部分です。この先端部分は様々な用途に合わせて取り換えることができます。家庭用の高圧洗浄機の数倍の水圧で一気に側溝内の土砂などを排除することができます。

高圧洗浄中：先端部分の後方から高圧の水を噴射し、引き戻しながら土砂等を取り除いていきます。１日に100m～150mの作業ができます。

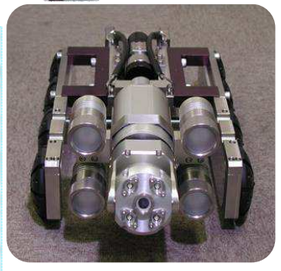


土砂吸引：３０m～40mおきに途中の蓋を開けてダンパー車（強力吸引車）で土砂を吸引し、廃棄物として指定の処分場に搬入します。（オジサン、頑張ってます！（笑）

側溝内には降灰だけでなく、様々なゴミが流入しています。

作業後：作業後の管内の様子です。”なんということでしょう！（笑）“　匠の技で管内の土砂がすっかり除去されました。最後は管内カメラ等で確認をします。蓋が重たい又は暗渠排水溝には特に力を発揮します。

弊社では、地区内の側溝清掃の無料見積も致します。排水管系のことなら是非、「文化社」へ御連絡ください。



～ 新しい仲間 ～　これまでの社員同様、よろしくご指導ください

よろしくお願いします

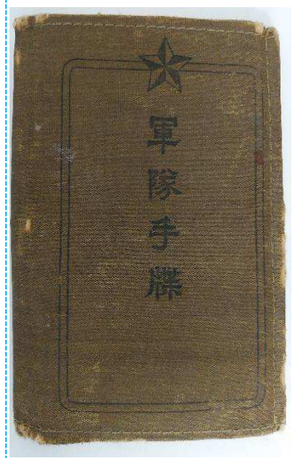
名前：永田　亘（ながたわたる）
趣味：庭の剪定・ジョギング
抱負：初めての職種でゼロからのスタートですが、安全を第一に地域の皆様に貢献できるように技術を身につけて、努力していきたいと思います。

よろしくお願いします

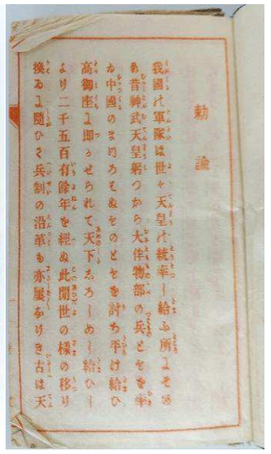
名前：船迫（ふなさこ）（事務員）
抱負：前職では管理栄養士をしていました。一般企業の事務職は初めてです。お客様にご迷惑をかけないように励んでまいりますのでよろしくご指導ください。

戦後７５年　先輩方の体験を後世に残す　～第二回～

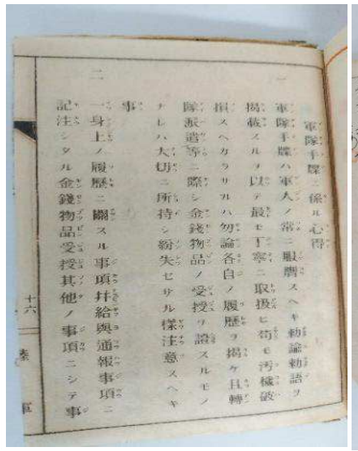
１９４５年（昭和２０年）８月１５日で太平洋戦争終結から今年で７５年が経ちました。今年の慰霊祭等は規模を縮小し執り行われたところもあったようですが、諸先輩方のご苦労の下で「生かされている私達にできることは何か」を考えたとき、お客様からお聞かせ頂く貴重な体験談や資料を少しでも多くの皆様に知っていただきたいとなりました。
戦後７０年の第一回の時にも、「あまり思い出したくない」と言われていた方が「あんた達の役に立つんだったら」と重い口を開いてくださいました。今回もお客様や社員の親族などから、貴重な体験談を拝聴し、子や孫に伝えることで「平和への思い」を新たにすることができました。



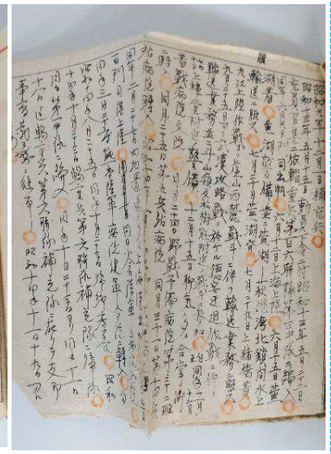
形見の「軍隊手帳」をお借りしました。



見開きには「軍人勅諭」が・・・。



軍隊手帳心得は、兵隊さんたちは全て暗記するように求められたそうです。



直筆の文字で、「支那事変」や「武漢攻略戦」の文字が読み取れます。

夜に家族で食事をしていたら突然、空襲警報が鳴り、父の「防空壕に入れ」の声で家族全員逃げ込んで、助かった。（上谷口町　男性）

郡元にあった基地に爆弾が落ちて、あちこちが火の海になった。近くの川沿いを必死になって逃げたが、家は全焼した。二度とあんな思いはしたくない。（郡山町：女性）

兄が離島から一時帰ってきた時、一片の黒糖をお土産に持って帰ってきた。その甘さは今でも思い出す。（鹿児島市：女性）

父が、旧ソ連の国境警備にあたっていた。３年９か月の従軍だったが、終戦前に鹿児島に帰ってこれて幸いだった。（姶良市：男性）

出征兵士の行進を見ては「俺もいつかは」と思っていた。周りが皆、「お国の為に」という雰囲気だったので、当たり前だと思っていた。　あの兵隊さん達は、生きて帰ってこれたのか今でも思い返すことがある。（鹿児島市:男性）

６月１７日の夜、寝ていたら聞いたことがない音や声がしたので飛び起きて、外を見たら昼間のように明るかった。空襲警報も鳴らなかったと思う。呆然としていたら、兄が「逃ぐっど」と言って私の手を引っ張って壕に連れて行ってくれたが人が一杯だったので、別の壕へ逃げ込んだ。必死だったのでどこを逃げたか覚えていない。（鹿児島市：男性）

逃げ込んだ防空壕のそばに焼夷弾が落ちた。梅雨の時期だったので、防空壕も子供の膝まで水浸しだった。周辺の火災で防空壕の中は蒸し焼き状態になりそうだったので爆弾が落ちる中、逃げた。翌朝その防空壕に行ったら、中にいた人たちは全員死んでいた。父があの時防空壕から逃げる決断をしてくれたから助かった。（南大隅町：女性）

空襲時、避難用に掘られた洞穴があちこちにあった。以前そのような避難壕を埋め戻す仕事で鹿屋航空基地の下あたりにあった地下壕。モルタル性で堅固な造りだった。

男のキャンプ第３弾　～冬キャンプのすすめ～

アウトドア派「**社員Ｋ**」のキャンプコーナー。今回は冬キャンプをご紹介します。

冬のキャンプというと、「寒い」「危険」言うイメージがありますが、意外にテントの中は暖かいです。人も少なく虫もいない自然を満喫できる一番好きな季節です。１８㎏弱のリュックを背負い-９℃の中、登山泊をしたことがありますが、下界では味わえない景色を堪能することができます。また、焚き火を囲んでの仲間との楽しい時間や一人で眺める優雅な時間も、冬キャンプの醍醐味ではないでしょうか？最近では、高性能なポータブルバッテリーなどを使用してテントの中に、電気毛布やこたつなどを持ち込み暖かく過ごせるように工夫されている方もいらっしゃいます。

食事も手の込んだものや高価なものでなくても、温かさがご馳走になります。新雪を溶かして入れるコーヒーは旨い！是非一度冬キャンプを体験してみてください。

絶景かな!!

よだれが～

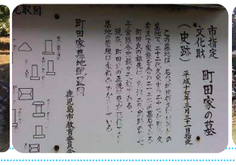
焚き火を囲んで

新雪で淹れるコーヒーは格別に旨い

Ｋ画伯作??（笑）

街ネタ 小ネタ　地元のむかしの小ネタ　鹿児島地区　～笹貫（ささぬき）～

先日、お客様の浄化槽の点検にお伺いした時に、ふと横を見ると小さな慰霊碑がありました。その小さな看板を見てみると、「波平行安の妻」を祭っているとの説明書きが・・・。帰ってから調べてみると、薩摩の刀工「波平行安」が昔、刀を作っていたのがこの場所らしく、伝説では行安が刀を作る際、妻に「集中する為に、どんなことがあっても鍛冶場を覗いてはいけない」と言って作り始めたが、数日たって鎚の音がしなくなり気になった妻が覗くと、丁度最後の仕上げ中だった行安は集中力が切れた為、その刀を裏の竹藪に捨てたそうです。後日、その竹藪で何かが光っていると村中が大騒ぎとなり、見に行った所、茎（なかご）が地中に埋まり切先が直立した状態で舞い降りた笹の葉が無数に貫かれていた為、この刀に「笹貫」の号がつけられたそうです。名刀「笹貫」は京都国立博物館に重要文化財として展示されており、また、名刀「笹貫」を打った際に使った井戸が現在も、東谷山１丁目に「笹貫井戸」として現存するそうです。
波平一門は、明治初期頃まで刀工として代々受け継がれたとの事です。

松元地区　～石谷町（いしだに）～

1500年安土桃山時代～石谷城があり、本丸、二の丸、三の丸があり二の丸北側に墓所があった。現在も残る町田家(町田久成：薩摩藩英国留学の学頭･初代博物館長等重責歴任)墓碑が林立する場所です。　他、二の丸内には「永福寺」が建立されました。　「石谷出産茶」といわれるほど茶の生産が豊富だったようです。寺社を中心として、六月灯や盆踊り、庶民の田之神講、山之神講油講、無尽講などが行われていたようです。現在までその名残が残っているかはわかりませんが、地域の連帯感があり、明るく元気な先輩方も多くおいでのいい町です。ちなみに町田久成氏、同じ石谷の彫刻家中村晋也さんがつくられた中央駅前の銅像にもいるのはご存じですよね。